

## ラムサール条約登録湿地「中池見湿地」 後谷の自然環境の重要性についての調査レポート

### はじめに

- ・ 本資料は北陸新幹線の路線建設が予定されている「後谷（写真 1）」に関する自然環境の情報を取りまとめたものである。
- ・ 取りまとめにあたっては、地元市民団体やここを調査研究対象としてきた専門家の方々から情報をお寄せいただいた。
- ・ 本取りまとめは新たな路線計画の公表に対応して短時間で緊急的に作成したものであり、当地の重要性を十分評価するためには今後より詳細な調査を実施することが不可欠である。
- ・ 希少種の種名については保全上の理由から公開していないものもある。



写真 1：後谷の湿地の様子

### 自然環境の重要性

#### 1. 絶滅危惧種 10 種をはじめとする希少生物の生息生育地となっている

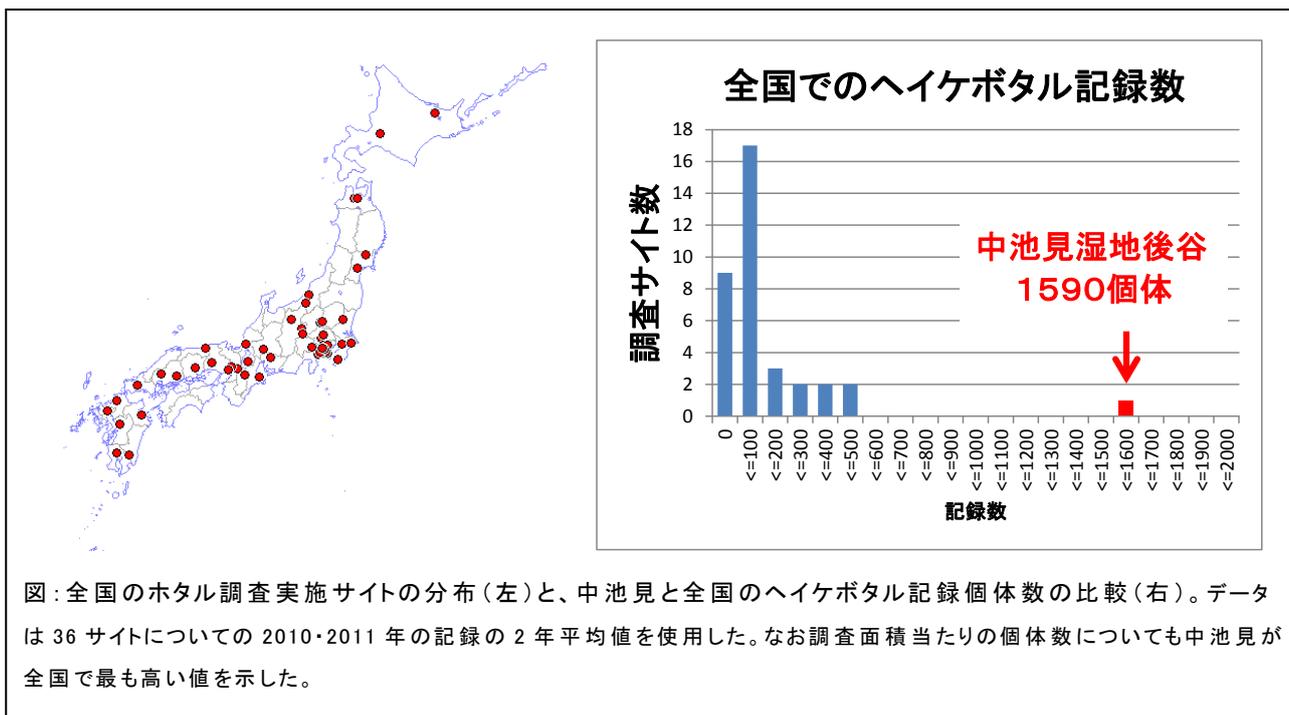
- ・ 取りまとめの結果、後谷には環境省レッドリストに掲載される種が 20 種以上（絶滅危惧 10 種、準絶滅危惧 11 種）生息生育していることが明らかとなった。
- ・ 特に新幹線の路線建設が計画されている湿地部分には水辺の絶滅危惧種が集中している。ミズトラノオ（写真 2）、ミズオオバコ、モートンイトトンボ、クロゲンゴロウ、ミズコハクガイ、メダカ、ヨコハマシジラガイ、マシジミ、ナタネキバサナギガイなどの絶滅危惧種をはじめとする多数の水生动植物が確認されている。
- ・ ヨコハマシジラガイやモートンイトトンボなど、中池見湿地の中でもこの後谷でしか確認できない種も多い。これは、後谷の環境が特異的であることや、過去 20 年間でほとんど無くなった水田的環境がこの場所に多く残されているためであり、中池見湿地全体からみても後谷が重要なホットスポットの一つであることを示す。
- ・ 谷の湿地部分だけでなく、両側の森林内にも絶滅危惧種に指定される複数のラン科植物や貴重なチョウの繁殖場所が確認されている。また、日本でしか繁殖が確認されていない鳥であるノジコ（IUCN レッドリスト絶滅危惧 II 類）やミゾゴイ（IUCN 絶滅危惧 IB 類）が確認されているほか、ミゾゴイ・サシバ（環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類）については後谷で繁殖している可能性も指摘されている。



写真 2：ミズトラノオの群落

## 2. 全国的にも重要な自然環境が存在している

- ・ 中池見のメダカは、今年 6 月に新種として記載された北日本型メダカ (*Oryzias sakaizumii*) のタイプ標本産地とされている。後谷は中池見湿地と湿地外側の生息地をつなぐ「コリドー（回廊）」として重要な場所である。
- ・ 後谷は中池見湿地の中でもヘイケボタルが最も多く確認できる場所である。現在環境省が全国 40 ヶ所以上で行っている「モニタリングサイト 1000 里地」ホテル調査の結果と比較すると、この場所の記録個体数が飛びぬけて多く、全国でも重要な場所の一つであることがわかる。



## 3. 豊かな生物相を支える豊富な湧水が存在している

- ・ 後谷の両側の山腹からは季節を通じて常に湧き水が湧き出ており、このことが安定的な湿地環境の形成につながっている。この湿地に水を供給する両側の山の存在や、湿地本体から連続的に続く水路など、水環境を支える周辺の地形・植生・水文環境が現在の豊かで貴重な生物相を支えているといえる。特に路線計画の直上に位置する場所は後谷の中でも湧水量が豊富な場所である。
- ・ 後谷の湧水は古くから水田の用水や信仰の対象ともなっている。また後谷は市民運動の重要な活動拠点のひとつであり、今後は外部からの条約湿地の来訪者を受け入れる際の主要な入口部分となることも予定されている。このように後谷は農業資源・信仰・環境活動・観光資源といった様々な視点からも重要な場である。

### 情報提供をいただいた方のリスト（順不同。敬称略）

- ・ NPO 法人ウェットランド中池見：  
 笹木 進、吉田 一郎、藤野 勇馬、千々岩 哲、和田茂樹
- ・ 角野 康郎（神戸大学 理学研究院 教授）
- ・ 平井 規央（大阪府立大学 生命環境科学研究科 助教）